



坂西志保 昭和36(1961)年頃

坂西志保(明治29・1896～昭和51・1976)は、小樽出身の国際的な学者・評論家です。父は塩谷村伍助沢の櫻井農園に入植した坂西傳明で、志保は、キリスト教信者であったその父の影響で幼少期に洗礼を受けました。満8歳で塩谷簡易教育所伍助沢分校に入学し、その後、小樽初の女学校であった静修女学校(クララ・ロース設立)に進学しました。やがて単身上京し、捜真女学校英文科を経て、東京女子大学に入学。大正11年(1922)にアメリカ・マサチューセッツ州のウィートン大学(Wheaton Collage)に留学。当初は2年ほどの滞在予定でしたが、関東大震災の報を知り、帰国を断念。奨学金を得てミシガン大学大学院で学び、博士号を獲得します。日本の女性で、文系で学び博士号を得た例はこれが初めてでした。のち、アメリカの国立議会図書館に勤務し、まもなく課長に就任。日本文化に関する書籍・資料の収集と編纂に当たりました。この時期、石川啄木の『一握の砂』や与謝野晶子の『みだれ髪』、狂言の演目等を英訳して、日本文化の紹介に努めました。

日本人として、また女性として輝けるキャリアの道を歩いた志保でしたが、急転直下、真珠湾攻撃の当日にFBIにスパイ容疑で連行され、移民局の施設に収容されてしまいます。翌年、日本へと強制送還されてからは、外務省の嘱託やNHKの論説委員として働いたもの

の、今度は〈親米の危険分子〉と疑われて憲兵にマークされ続けました。そのような波乱の時期を経験した志保でしたが、戦後はその優れた翻訳能力を買われて、GHQ民政局長のホイットニー少将から直接の協力要請を受け、GHQに一時勤務。その後は評論家として日本にアメリカの民主主義の真髄を伝えるべく、言論活動を展開。その、齒に衣を着せない切れ味の良い考察は、一般書として数多く刊行されただけでなく、『暮しの手帖』などの家庭向け雑誌にも発表され、戦後の日本人に広く享受されました。

今回の展示では、坂西志保の人生と業績について、その著書を中心にご紹介したいと思います。



アメリカの女性 昭和22(1947)年



地の塩 昭和22(1947)年



星条旗の子供 昭和22(1947)年



永遠の炎 昭和39(1964)年



一握の砂(英訳) 昭和9(1934)年

〈主な展示内容〉

- ・坂西志保著書
- ・静修女学校関連資料
- ・滞米期間関連資料(参考写真等)
- ・塩谷村地図および櫻井農園解説
- ・斎藤博(外交官)訳詩集『移植林』 吉田茂・坂西志保解説
- ・坂西志保と猫 ——無類の愛猫家——
- ・神奈川県大磯町立図書館〈坂西志保文庫〉現在の様子(写真)



公式ホームページ



公式 X (旧 Twitter)

【関連事業】 連続講座：坂西志保をもっと知ろう！

第1回「坂西志保に学ぶ民主主義」

2026年 3月1日(日)14:00～16:00
講師 山川 隆(小樽観光ガイドクラブ顧問)



市立小樽文学館1階研修室
各回定員40名 聴講無料

第2回「日本の危機を救った坂西志保の啄木翻訳」

2026年 3月8日(日)14:00～16:00
講師 亀井 志乃(市立小樽文学館 館長)



【申込方法】
電話：0134-32-2388
または LogoフォームQRコード

市立小樽文学館

〒047-0031 小樽市色内1丁目9番5号 tel/fax.0134-32-2388

JR函館本線		小樽駅
●小樽経済センター		
●産業会館	長崎屋 ●	●サンビルスクエア
都通り		
●オーセントホテル小樽		
金融資料館 ● (旧日本銀行)		●市立小樽文学館
●郵便局本局		
●小樽芸術村		
小樽運河		
		旧手宮線